圧力回転継手 パールロータリージョイント

pearl rotary joints

取扱説明書

AC series

この取扱説明書は、製品を使用する前に注意深く読み、
よく理解してください。
いつでも使用出来るように大切に保管してください。

SGK 株式会社 昭和技研工業
SHOWA GIKEN INDUSTRIAL CO., LTD.

パールロータリージョイント取扱説明書

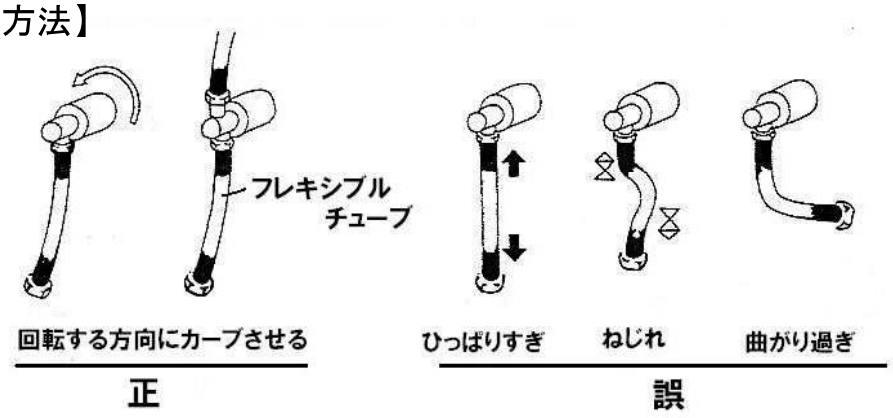
1. 取扱のご注意

A. 本器は、ただちに取りつけ使用できる状態で納入されますから、調整は不要です。
B. 取りつけるまで、清浄且つ安定した状態で保管してください。
C. 本器に、衝撃をあたえたり、足場などにしないでください。

2. 取付けのご注意

A. シール面に異物が入らぬよう、配管・ロール等流路内のゴミをとりのぞいてください。
又・流体内 1 に異物が混入している場合には、流路にストレーナーを取りつけてください。
B. パールロータリージョイントは、ロールや、ドラムの回転中心と同芯上に、ネジ部にシールテープを用いて正しく取りつけてください。フランジ型のものはガスケットを使用しボルトを均等に締めつけてください。
C. ロータリージョイントのケース中央部のベントホール(検査穴)は、摺動シール部からの流体漏れを、速やかに発見する為の穴ですから、**必ず下向きになるように取り付けてください。**上向きにしたり、穴をふさいでしまうと、漏れた流体がケース内にたまり、ベアリング部に入り潤滑回転不良を生じ、大きな事故となりますので充分注意をしてください。
カタログの位置に配管しない場合には、ご指示ください。
D. 本器との配管は、フレシキブルチューブ又はゴムホースを使用してください。
鋼管での直接配管など、本器を拘束する事は避けてください。
E. 使用ずるフレシキブルチューブの長さは 20A までは 300～400 ㎜、25A は 400～600mm,32A 以上は 600～800mm 位が適当です。
F. フレキシブルチューブを取りつける際、ねじれを与えるとフレシキブルチューブの寿命を著しく短くしますので御注意ください。

【配管方法】



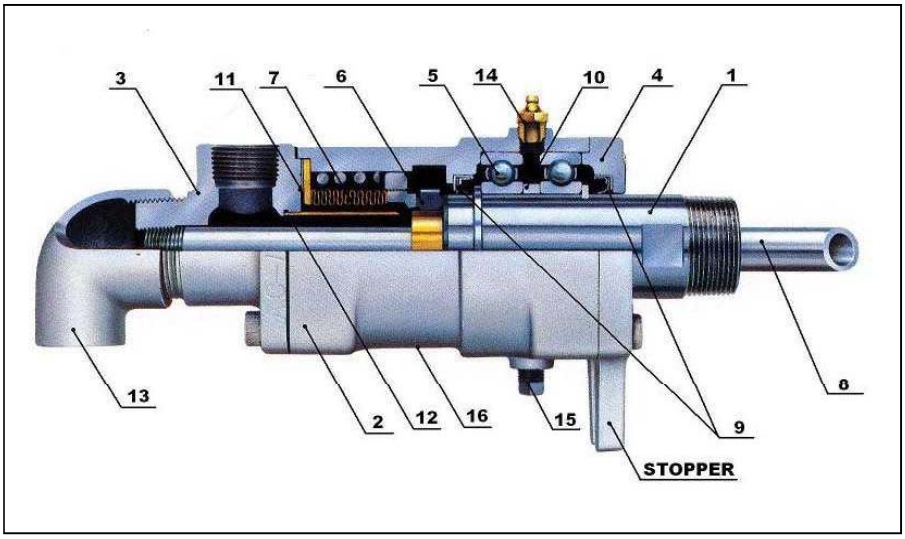
G. 本器に、バルブ等の他機器の重量がかかるような配管は避けてください。また、本器の回転止めには、回転を止める以外の拘束を与えないでください。

3. 保守のてびき

以上のように、充分注意して取りつけられたロータリージョイントでも、流体の種類や運転条件の差異等により、機能状態も一様ではありませんが、取付け方法・配管方法の良し悪しにより、相当の差異を生じます。また、長期間のご使用により、軸受部や摺動シール部は磨耗しますから、これらの部品を適宜交換することで、再使用が連続的に可能となります。摺動シール部からの流体の漏れはケーシングに設けられた検査穴より、すみやかに発見できます。

『警　　告』

流体の漏れを生じたま運転を継続しますと重大な事故の原因となることがあります。速やかに修理または新品と交換してください。



① 回転軸
② 胴部
③ 頭部
④ カバー
⑤ 軸受
⑥ シールリング
⑦ ベローアッセンブリー
⑧ 内管
⑨ オイルシール
⑩ スペーサー
⑪ ガスケット
⑫ 保護管
⑬ エルボ
⑭ グリースニップル
⑮ プラグ
⑯ 検査孔

分　　解

六角レンチを使用し③ヘッドを②ケーシングより外します。次に⑦ベローアッセンブリー⑥シールリングを引き出します。④カバーを外すと①ロータとロータに圧入された⑤ボールベアリングを.引き抜くことが出来ます。

点　　検

各部品を洗浄し損傷の有無を確認してください。特に①ロータ⑥シールリング⑦ベローアッセンブリーのシール面の磨耗損傷を点検してください。

部品の交換及び補修

補修可能なシール面は再ラップが必要です。補修部品は、必ず当社純正部品を、ご使用ください。

組　　立

分解の逆の順序で組立てますが、特にシール面には細心の注意をはらい塵が付着した場合はシンナー等で拭きとってください。
⑨オイルシールがセットされていることを確認します。②ケーシングに⑤ボールベアリングの圧入された①ロータを挿入し④カバーをボルトで止めます。
(フランジ取り付けの場舎は、ベアリングを圧入ずる前に④カバーを①ロータに挿入しておきます。) 次に⑥シールリシク⑦ベローアッセンブリー⑪ガスケット③ヘヅドを順次組み込みます。異常がなげれば排油口のブラグを外してグリースを給油してください。給油完了後はプラグをセットしてください。
組立て後は慣らし運転を行ってから流体を通してください。

日常の保守は下記の点にご注意ください。

A. パールロータリージョイント AC 型は適当な周期で給油が必要です。給油するときには、排油口のプラグをはずしてから、グリスニップルより給油してください。

※封入グリース：出光興産[ダフニーエポネックスSR No.2]

※過度の給油は給油不足と同様に良くありません。給油のおおよその目安は、
※給油の目安.

温度(℃)	給油頻度
0～130	3ヵ月/1 回
130～150	1 ヵ月/1 回
150～180	1 週間/1 回

B. 芯振れを生じたままで、運転をつづけないでください。
C. 運転を中止した状態での、長時間の放置はしないでください。
錆の発生等によって、良くない結果をまねきます。

使用上の注意事項

A. 本器の、運転(回転).をはじめる時、及び蒸気・熱油等の高温圧力流体を通しはじめる時は、回転速度・圧力を徐々に上げることとし、回転の異常(振れ、異常音など)及びシール部やガスケット部から流体漏れのないことを確認してください。

B. 回転運転中及び高温圧力流体を通している時、本器には、なるべく近寄らずに、絶対に手などをふれないでください。

C. 流体の漏れが生じた時は、速やかに、バルブを閉めて流体を止め、機械の運転を停止して修理を行ってください。

D. 本器の、取り外しは、機器配管の中の流体が完全に抜けて圧力=0 で温度が完全に下がっていることを確認後、施行しください。

E. 長時間の空運転(流体を通さないで)は避けてください。

株式会社 昭和技研工業
SHOWA GIKEN INDUSTRIAL CO., LTD.

本 社 ・ 工 場　埼玉県北足立郡伊奈町小針新宿 1247
〒362−0808　ＴＥＬ（０４８）７２８－８３２１㈹
ＦＡＸ．０４８－７２８－８３６０
東京営業所　東京都北区赤羽 ２－６４－１１
〒115−0045　ＴＥＬ （０３）３５９８－１４００㈹
ＦＡＸ．０３－３５９８－２７００
大阪営業所　大阪市北区豊崎 ２－９－６
〒531−0072　ＴＥＬ （０６）６３７１－８３４１㈹
ＦＡＸ．０６－６３７１－６２８３
名古屋営業所　名古屋市名東区高針台 １−１０７
〒465−0054　ＴＥＬ （０５２）７０１－４０６８㈹
ＦＡＸ．０５２－７０４－４０５１